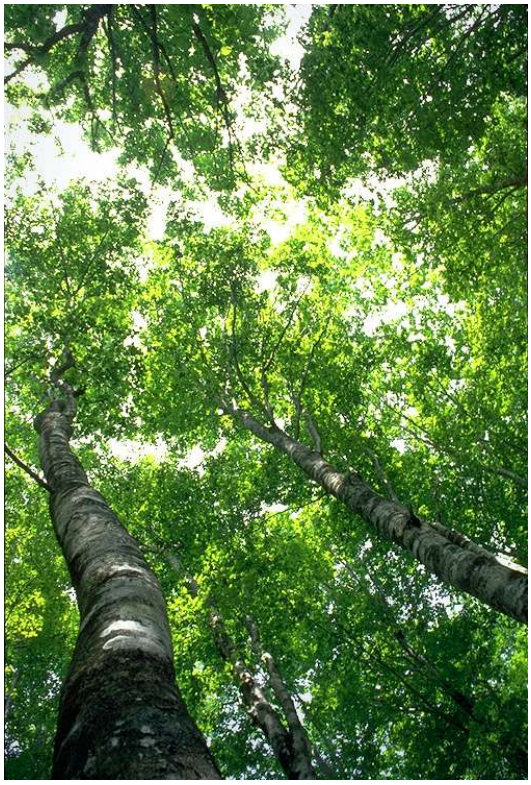
環　境　経　営　レ　ポ　ー　ト

第46期（令和5年6月1日～令和6年5月31日）の成果



作成日：令和6年9月24日

株式会社　栗 原 建 設

1. 環境経営方針

基本理念

株式会社 栗原建設は、事業活動を通して社員一人一人が
自然環境に対する認識を深め、より良い地球環境を次の
世代へ引き継ぐことを目指し、自然環境の保全及び維持
向上に取組みます。

基本方針

１．環境負荷低減の為、次の事に積極的に取り組みます。

1）省エネルギー設計、環境配慮施工・工法を推進します。

2）省エネルギー、省資源活動を推進します。

3）産業廃棄物発生の抑制及び資源循環に取組みます。

4）５Ｓ（整理、整頓、清掃、清潔、躾）運動を行います。

5）グリーン製品を購入します。

6）地域貢献活動を積極的に行います。

２．環境に関する法規制、地域との協定書の遵守に努めます。

３．社内での環境経営方針の周知徹底と継続的な改善に努めます。

制定日：平成 21年11月 1日
改定日：平成 30年 8月 1日

株式会社　栗　原　建　設
代表取締役　永尾　繁昌

２．　会社概要

1. 事業者名及び代表者名　　株式会社　栗 原 建 設
代表取締役　永　尾　繁　昌

2. 所在地　　佐賀県武雄市武雄町大字武雄136番地

3. 環境管理責任者氏名　　代表取締役　永　尾　繁　昌

4. 連絡先　　ＴＥＬ　　０９５４－２２－４３６１
ＦＡＸ　　０９５４－２２－４８７２
Ｅ－ｍａｉｌ　kuriken@herb.ocn.ne.jp

5. 事業の内容
1）特定建設業許可：土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工工事業
石工事業、屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業
鋼構造物工事業、ほ装工事業、しゅんせつ工事業、
塗装工事業、内装仕上工事業、水道施設工事業
左官工事業、板金工事業、防水工事業、建具工事業
鉄筋工事業、ガラス工事業、熱絶縁工事業、解体工事業
2）一般建設業許可：管工事業
3）一級建築士事務所の登録

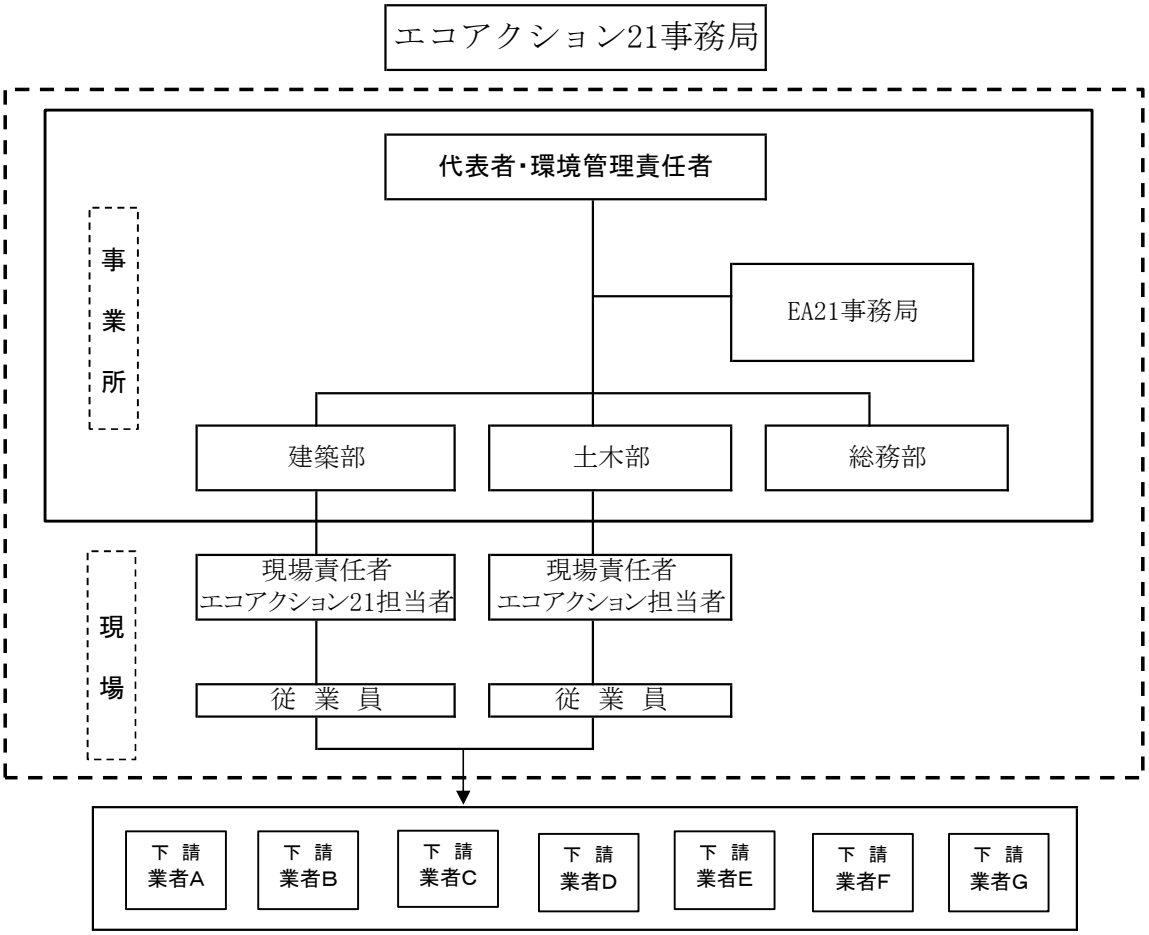
6. 認証・登録の範囲
土木工事業、建築工事業、大工工事業、とび・土工工事業、石工事業、
屋根工事業、タイル・れんが・ブロック工事業、鋼構造物工事業、舗
装工事業、しゅんせつ工事業、塗装工事業、内装仕上工事業、水道施
設工事業、左官工事業、板金工事業、防水工事業、建具工事業、
鉄筋工事業、ガラス工事業、管工事業、建築設計施工監理業
解体工事業

7. 事業の規模　　年間売上高　913,520,000円
従業員数　28名
資本金　20,000,000円

8. 事業年度　　令和5年6月1日～令和6年5月31日

9. 取り組みの対象組織及び活動　：　全組織・全活動

３．　実施体制図



役割分担表

所属	役割・責任・権限
代　表　者	・代表者として環境経営全般について責任と権限を持つ ・環境経営方針を作成・見直し、従業員に周知する ・環境管理責任者、エコアクション２１事務局員を任命する ・環境への取組を実施するための資源（人・もの・金）を準備する ・エコアクション２１全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
環境管理責任者	・エコアクション２１ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築し、実行し、環境実績を向上させる
エコアクション２１ 事務局	・環境管理責任者を補佐し、エコアクション２１文書及び記録類の作成・維持・管理を行う ・社外からの環境情報の収集と伝達を行う
部　門　長	・環境経営方針、自部門の環境経営目標、環境経営活動計画を部門全員に周知する。 ・自部門の環境経営目標、環境経営活動計画の達成と実績の把握を行う ・自部門で発生した問題点の是正処置、予防処置を実施する ・自部門に関連する法規制等を順守する ・自部門に関連する緊急事態への準備及び対応の訓練を実施する ・自部門の教育・訓練を実施する
現場責任者・従業員	・環境経営方針の理解と環境への取組の重要性を自覚する ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加する ・新規入場者教育の実施（下請け業者）

４．　環境経営目標とその実績

4-1.　環境経営目標（事務所＋現場）

①二酸化炭素排出量の削減

取 組 項 目（単位）			第45期 R4. 6. 1 ～ R5. 5.31 （基準値）	第46期 R5. 6. 1 ～ R6. 5.31 （第45期比）	第47期 R6. 6. 1 ～ R7. 5.31 （第45期比）	第48期 R7. 6. 1 ～ R8. 5.31 （第45期比）
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	全体	254,406	253,134 （0.5%削減）	251,862 （1.0%削減）	250,590 （1.5%削減）
電力使用量	kWh	事務所	15,959	15,879 （0.5%削減）	15,799 （1.0%削減）	15,720 （1.5%削減）
		現場	13,670	13,602 （0.5%削減）	13,533 （1.0%削減）	13,465 （1.5%削減）
ＬＰＧ使用量	kg	事務所	50.7	50.4 （0.5%削減）	50.2 （1.0%削減）	49.9 （1.5%削減）
ガソリン使用量	L	事務所	18,761	18,667 （0.5%削減）	18,573 （1.0%削減）	18,480 （1.5%削減）
軽油使用量	L	現場	76,353	75,971 （0.5%削減）	75,589 （1.0%削減）	75,208 （1.5%削減）
灯油使用量	L	現場	57.4	57.1 （0.5%削減）	56.8 （1.0%削減）	56.5 （1.5%削減）

※二酸化炭素排出量の電気使用量に用いた排出係数は九州電力0.462kg-CO_2/kWh（令和4年度）を使用する。

※灯油使用量は43期から45期の平均を基準値とする。

②建設リサイクルの推進

取 組 項 目（単位）		第45期 R4. 6. 1 ～ R5. 5.31 （基準値）	第46期 R5. 6. 1 ～ R6. 5.31 （第45期比）	第47期 R6. 6. 1 ～ R7. 5.31 （第45期比）	第48期 R7. 6. 1 ～ R8. 5.31 （第45期比）
建設リサイクルの推進（%）	現場	94.2	94.2 （基準年度維持）	94.2 （基準年度維持）	94.2 （基準年度維持）
一　般　廃　棄　物（kg）	事務所	101.0	100.5 （0.5%削減）	100.0 （1.0%削減）	99.5 （1.5%削減）

③水資源使用量の削減

取 組 項 目（単位）		第45期 R4. 6. 1 ～ R5. 5.31 （基準値）	第46期 R5. 6. 1 ～ R6. 5.31 （第45期比）	第47期 R6. 6. 1 ～ R7. 5.31 （第45期比）	第48期 R7. 6. 1 ～ R8. 5.31 （第45期比）
水　　m^3	事務所	198.0	197.0 （0.5%削減）	196.0 （1.0%削減）	195.0 （1.5%削減）
	現場	30.0	29.9 （0.5%削減）	29.7 （1.0%削減）	29.6 （1.5%削減）

④環境配慮施工

・事故ゼロ（危険予知活動、安全パトロール,声かけ）
・手戻りゼロ（作業前のミーティング、打ち合わせの徹底、情報の共有）
・再生資材を利用する。

⑤地域貢献活動

・地域の一員として生活に密着した活動を行う。

4-2.　第46期の実績（事務所＋現場）

第46期（R5.6.1～R6.5.31）の環境目標と実績との比較である。

①二酸化炭素排出量の削減

取 組 項 目（単位）			第46期 環境目標	第46期 実　績	環境目標と実績の比	判　定
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	全体	253,134	190,032	75.1	○
電力使用量	kWh	事務所	15,879	13,437	84.6	○
		現　場	13,602	8,393	61.7	○
ＬＰＧ使用量	kg	事務所	50.4	44.6	88.5	○
ガソリン使用量	L	事務所	18,667	14,825	79.4	○
軽油使用量	L	現場	75,971	56,309	74.1	○
灯　　油	L	現場	57.1	56.0	98.1	○

※二酸化炭素排出量の電気使用量に用いた排出係数は九州電力0.462kg-CO_2/kWh(令和4年度) を使用する。
※灯油使用量は43期から45期の平均を基準値とする。

②建設リサイクルの推進

取 組 項 目（単位）			第46期 環境目標	第46期 実　績	環境目標と実績の比	判　定
建設リサイクルの推進	%	現場	94.2	96.5	102.4	○
一　般　廃　棄　物	Kg	事務所	100.5	93.0	92.5	○

③水資源使用量の削減

取 組 項 目（単位）			第46期 環境目標	第46期 実　績	環境目標と実績の比	判　定
水	m^3	事務所	197.0	172.0	87.3	○
		現　場	29.9	144.0	481.6	×

④環境配慮施工

・事故はなっかた。
・手戻りはなかった。
・再生資材として、再生クラッシャーランを購入した。

⑤地域貢献活動

・近隣小学校の会社見学

・「こども110番の家」

*その他

インターンシップ（職業訓練校）や、職業体験（高校）の受け入れ
献血への参加
佐賀県との防災協定の締結

５．　環境経営計画

5-1.（事務所＋現場）

(1)二酸化炭素排出量削減のための取組み目標と取組み方法

1）電気使用量の削減
①冷暖房の設定温度を決め、実行する。
②こまめに消灯する。

2）LPG使用量の削減
消し忘れをなくす。

3）ガソリン使用量の削減
①アイドリングストップを実行する。
②過積載防止。

4）軽油使用量の削減
①アイドリングストップを実行する。
②過積載防止。

5）灯油使用量の削減
①暖房器具はこまめに消す

(2) 廃棄物排出量の削減のための取組み目標と取組み方法

1）建設リサイクル率の維持
①分別を徹底し、資源にする。

2）一般廃棄物排出量削減
①分別を徹底する。

(3) 水資源使用量の削減のための取組み目標と取組み方法

1)水資源使用量の削減
①こまめに蛇口を閉める。

(4) 環境配慮施工のための取組み目標と取組み方法

1）事故ゼロ
・危険予知活動、安全パトロール、声かけ。

2）手戻りゼロ
・作業前のミーティング、打合せの徹底、情報の共有。

(5) 地域貢献活動

・積極的に参加する。

5-2環境経営計画の取組結果とその評価

○：実行している　△：概ね実行している×：実行できていない

①二酸化炭素排出量の削減

目　　標	活動項目	取組結果			
		6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月
電気使用量削減	冷暖房の設定温度を決め、実行する	○	○	○	○
	こまめに消灯する。	○	○	○	○
LPG使用量削減	消し忘れをなくす	○	○	○	○
ガソリン使用量削減	アイドリングストップを実行する	○	○	○	○
	過積載を防止する	○	○	○	○
軽油使用量削減	アイドリングストップを実行する	○	○	○	○
	過積載を防止する	○	○	○	○
灯油使用量削減	暖房器具はこまめに消す。		○	○	○
評　価	具体的な取り組みを示すことで小さなことにも気付くことが出来るようになった。				

②建設リサイクルの推進

目標	活動項目	取組結果			
		6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月
建設リサイクル率の維持	分別を徹底し、再資源化する	○	×	○	○
一般廃棄物排出量削減	分別を徹底する	○	○	○	○
評　価	全体的にはよくできているが、一人一人が分別に対する知識を深める事が必要。				

③水資源使用量の削減

目標	活動項目	取組結果			
		6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月
水資源使用量削減	こまめに蛇口を閉める	○	○	○	○
評　価	一人一人が意識して取り組む事ができている。				

④環境配慮施工

目標	活動項目	取組結果			
		6月～8月	9月～11月	12月～2月	3月～5月
事故ゼロ	危険予知活動、安全パトロール、声かけ	○	○	○	○
手戻りゼロ	ミーティング、打合せの徹底、情報共有	○	○	○	○
評　価	活動項目を徹底したことにより、今年度も事故ゼロを達成することができた。無駄な資材やエネルギー使用の削減につながり、環境負荷を大幅に軽減することに貢献できた。手戻りに関しては多少あったようだが、活動項目を心掛けて作業してほしい。				

⑤地域貢献活動

目標	活動項目	取組結果
		6月～5月
地域貢献	積極的に参加する	○
評　価	地域イベントへの協力や土木事務所と防災協定を結ぶなど、建設業の強みを生かせる地域貢献ができている。	

※地域貢献活動については年間を通しての評価とする。

5-3. 次年度の取組内容

環境経営目標　（事務所＋現場）

①二酸化炭素排出量の削減

取 組 項 目（単位）			第45期 R4. 6. 1 ～ R5. 5.31 （基準値）	第46期 R5. 6. 1 ～ R6. 5.31 （第45期比）	第47期 R6. 6. 1 ～ R7. 5.31 （第45期比）	第48期 R7. 6. 1 ～ R8. 5.31 （第45期比）
二酸化炭素排出量	kg-CO_2	全体	254,406	253,134 （0.5%削減）	251,862 （1.0%削減）	250,590 （1.5%削減）
電　力　使　用　量	kWh	事務所	15,959	15,879 （0.5%削減）	15,799 （1.0%削減）	15,720 （1.5%削減）
		現　場 作業場	13,670	13,602 （0.5%削減）	13,533 （1.0%削減）	13,465 （1.5%削減）
ＬＰＧ使用量	kg	事務所	50.7	50.4 （0.5%削減）	50.2 （1.0%削減）	49.9 （1.5%削減）
ガソリン使用量	L	事務所	18,761	18,667 （0.5%削減）	18,573 （1.0%削減）	18,480 （1.5%削減）
軽油使用量	L	現場	76,353	75,971 （0.5%削減）	75,589 （1.0%削減）	75,208 （1.5%削減）
灯油使用量	L	現場	57.4	57.1 （0.5%削減）	56.8 （1.0%削減）	56.5 （1.5%削減）

※二酸化炭素排出量の電気使用量に用いた排出係数は九州電力0.462kg-CO_2/kWh（令和4年度）を使用する。
※灯油使用量は43期から45期の平均を基準値とする。

②建設リサイクルの推進

取 組 項 目（単位）			第45期 R4. 6. 1 ～ R5. 5.31 （基準値）	第46期 R5. 6. 1 ～ R6. 5.31 （第45期比）	第47期 R6. 6. 1 ～ R7. 5.31 （第45期比）	第48期 R7. 6. 1 ～ R8. 5.31 （第45期比）
建設リサイクル率	(%)	現場	94.2	94.2 （基準年度維持）	94.2 （基準年度維持）	94.2 （基準年度維持）
一般廃棄物	(kg)	事務所	101.0	100.5 （0.5%削減）	100.0 （1.0%削減）	99.5 （1.5%削減）

③水資源使用量の削減

取 組 項 目（単位）			第45期 R4. 6. 1 ～ R5. 5.31 （基準値）	第46期 R5. 6. 1 ～ R6. 5.31 （第45期比）	第47期 R6. 6. 1 ～ R7. 5.31 （第45期比）	第48期 R7. 6. 1 ～ R8. 5.31 （第45期比）
水	m^3	事務所	198.0	197.0 （0.5%削減）	196.0 （1.0%削減）	195.0 （1.5%削減）
		現場	30.0	29.9 （0.5%削減）	29.7 （1.0%削減）	29.6 （1.5%削減）

④環境配慮施工

・事故ゼロ（危険予知活動、安全パトロール, 声かけ）
・手戻りゼロ（作業前のミーティング、打ち合わせの徹底、情報の共有）
・再生資材を利用する。

⑤地域貢献活動

・地域の一員として生活に密着した活動を行う。

環境経営計画

5. に示す計画を継続して実施する。

6.　環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果

環境関連法規等の遵守状況は、環境管理責任者が確認し、評価している。
朝礼や工程会議を利用し、環境関連法規等の遵守を徹底している。

(2) 環境関連法規等の違反、訴訟等の有無

環境関連法規等の違反はない。また、訴訟等もない。

(3) 当社に関わる主な環境関連法規

廃棄物の処理及び清掃に関する法律
　　廃棄物の種類ごとにマニフェストを交付し最終処分までの確認している。
建設リサイクル法
　　廃棄物発生の抑制及び再資源化に係る費用を低減する努力をしている。
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律（オフロード法）
　　基準適合表示を受けた特定特殊自動車を使用している。
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
　　簡易点検を行い管理している。

7.　代表者による評価と見直し・指示

（1）評価

1) 各部門が目標を共有できたことで多くの項目で目標達成が出来た。
2) 環境経営目標について、未達成の理由は、
　①水資源使用量の削減
　　左官工事に大量の水を使用したため。
3) 事故や苦情はなく工事をすることが出来た。
4) 近隣小学校の会社見学の受け入れや、高校生の会社見学やインターンシップの受け入れを行なった。また、こども110番として子供達の安全を見守っている。

（2）見直し・指示

1) エコ活動は継続して実施する。
2) 環境経営方針、実施体制は現状のままとする。
3) 来期は社屋移転を控えているため、実績はデータ収集に徹することとする。